

バンドン日本人学校における少人数指導と実践

前バンドン日本人学校 教諭

福岡県小郡市立大原中学校 教諭 小島章稔

キーワード：バンドン，教員生活，指導

1. はじめに

私は、在外教育施設で教鞭をとることを目標に、数年前から応募をしてきた。諦めずに応募し続けた5年目、今年で最後と思っていた23年度に派遣教員に無事登録された。翌年の24年度から世界でも有数の小規模校であるバンドン日本人学校で勤務に当たり、とても貴重な経験をさせてもらうことができた。バンドンという都市がどこにあるのかも知らない状況から始まった、在外教育施設での教員生活の概略を紹介したい。

2. バンドンという都市

私が赴任したバンドン日本人学校はインドネシア第4の都市（人口約250万人）にある。バンドンの大半はスンダ民族で、性格は温厚、親日的で平和主義な印象をもった。新興国として経済成長の真っ只中にあり、車やバイクの普及がここ数年で急増しているようだ。インドネシア人の大半がイスラム教を信仰している。日本ではあまり馴染みが少ないイスラム教だが、戒律が厳しく、行動や食べ物など多くの規制があった。特に、ラマダンという断食月になるとイスラム教徒の人は日が昇っている間、一切食べものや飲み物を口にしない。そのため、仕事に影響が出たり、私たちの食生活にも影響が出たりすることも少なくなかった。生徒の大半もイスラム教徒なので、ラマダンの期間の体育の授業や家庭科の調理実習など気を遣う場面も多くあった。

インドネシアの歴史上、多くのインドネシア人が親日家であるが、海外の新興国なので治安が良いわけではないし、もしもトラブルに巻き込まれた時に対処の方法も分からないため、外出は全て自家用車で行い、住居には専用の警備員を雇わなければいけない状況であった。

3. バンドンでの生活

海外での生活を始める時にまず考えたことは、健康で安全に暮らすことであった。日本とは違い生水を飲むことができない。水は注意していても、店で出される氷やサラダを洗った水が原因で病気になることもあると聞かされていた。病気やけがをすると病院に行くが、日本語が通じる病院がバンドンにはなく、車で3時間以上かけてジャカルタまで診察に行かなくてはいけない。赴任前には数多くの予防接種をしたり、健康には細心の注意を注ぎ、公務に穴を開けないように努めた。

赴任当初は、日本と全く異なる文化や習慣に戸惑う事も多く大変な事もあったが、受け入れ担当の先生方をはじめ、たくさんの方に助けをもらいながら少しずつ慣れることができた。日が経つにつれ、見落としていたインドネシアのよさやおもしろい所も徐々に楽しむ余裕が出てきた。

バンドンは涼しくてたくさん自然やおいしい果物があり、生活するにも仕事をするにも過ごしやすい環境であった。日本企業の進出もあり、特に外食チェーンやスーパーなど日本でも馴染みのある店舗がいくつもあった。私は妻と2人の娘が同伴したが、娘は2人共同じ学校に通うことで不安もなかったためか、すぐに海外生活に適応しインドネシア生活を楽しんでいった。

4. バンドン日本人学校での教育

私が赴任したバンドン日本人学校は、24年度は小中学部合わせて15人、25年度は16人と世界でも有数の少人数の学校で、今までに経験したことが無い校種、教科を受け持つことになった。具体的に言えば、私は中学校理

科の教諭として派遣されたが、受け持ったのは小学6年生の担任、小学3年生以上の理科、小学6年生の国語、4年生以上の保健・体育、5年生以上の技術・家庭科などである。25年度には中学生の数学などの教科も受け持つことになり、教材研究、授業の準備に多くの時間を費やした。最初は教科指導に不安を感じていたが、予想以上に教材・教具がそろっており、無いものも書籍以外はこちらで購入することができたので、不自由なく授業を行う事が出来た。インターネットも普及しているため、必要な資料は日本から送ってもらうこともあった。しかし、気候や環境が日本とは異なるため、動植物観察や栽培などには少し苦勞する部分や、道徳の資料があまりなかったため、もう少し日本から持ってきておけばよかったと感じる部分は少なくなかった。

授業はごく少人数で行われ、場合によっては1対1で授業をする教科もあった。そのため、実験の技能や数学の計算力などの基礎技能を十分に身につけさせることも出来たと感じている。技能教科に関しては複式・複々式で行われるため、発達段階に応じた指導の難しさに直面した。例えば、体育の授業は小学5年生～中学3年生までが一緒に行く。それでも人数は8名と少ないためゲームなどは難しく、個人のスキルを上げる事がメインの内容になりがちであった。また、少人数であるため、お互いの意見を交換し合うディベート学習やディスカッションなどの学習には課題があった。

バンドン日本人学校に勤務する職員は、校長を含め6人と少人数のため、校務分掌もいくつも掛け持ちしたが、同僚の先生方に声をかけていただき、1つの行事や校務をみんなでやっていく雰囲気があるため、楽しく仕事が出来た。25年度は教務を任せられ、学校行事全般や期間割りなど様々な校務を経験することもできた。小学部・中学部ともに国・数・社・理・英は単学級で行うため、一人当たりの持ち時数も30時間を超える場合もあった。また、在外教育施設ということで、日本以上に日本文化を重視している部分もあり、こいのぼり会、七夕会、餅つき会、節分（豆まき会）などの行事は保護者も参加して盛大におこなっていた。

5. 終わりに

私は私事により派遣延長はせずに2年で帰国したが、貴重な海外での生活や教育活動を経験することができた。特に文化の違いを肌で感じる事ができたことは、私のこれからの教員生活に大きな影響を与えてくれたと感じている。

また、日本を離れることで日本の素晴らしさを再確認することもできた。海外（インドネシア）では生水は絶対に飲めない。不注意で飲んでしまうと命の危険があるほどである。また、日本ではほとんど知られていないデング熱や腸チフスなどの病気の危険性もあった。実際、私もデング熱に感染し、1週間ほど寝込んでしまった。海外で生活したからこそ、日本の治安の良さ、安全性、快適な暮らしをもう一度見直す良い機会にもなったと思う。

バンドン日本人学校は小規模校であったため、小学校の理科や、国語、数学などの専門外の教科を教えることで、中学理科との系統性や関連性などを学ぶことができたり、教務、進路を担当することで、見通しを持った行事計画を立てたり、全国の入試状況を調べたりと、多くの経験を積むことができた。2年間の経験を活かし、国際社会で活躍する生徒の育成に尽力したいと決意を新たにしたい。